

# 青年部会とフィールドワーク



株式会社 四国理水設計事務所

田中 良典

Tanaka Yoshinori

上下水道部門

## 1. はじめに

結成 3 年目を迎える青年部会は、今年度も新たな合格者を迎えることができ、会員も約 20 名となりました。結成から現在に至るまで、多くの御指導・御助言いただきました諸先輩方に厚くお礼申し上げます。

本稿では、これまでの活動内容の報告に加え、今年度を実施されたフィールドワークについて記したいと思います。

## 2. 青年部会について

青年部会は、徳島県技術士会会員のうち、青年技術士と呼ばれる 30 代～40 代を中心として構成された部会です。本部会では、5 名の実行委員による定例委員会を通じて、年度計画および開催行事等について話し合い、会員の賛同を得る形式で運営しています。また、会員同士の懇親会を通じ、意見交換、情報交換などを行い、仕事・プライベートにおいて、各々に負担がかからないよう無理のない計画を立て、青年技術士ならではの特色を強く打ち出した活動を行うことを心掛けています。

徳島県技術士会は、会員が 170 名を超える大きな組織であることから、所属する会員同士が交流する機会も限られています。そのため、各部会に参加し、諸活動を通じて懇親を深めることは、大変貴重な経験であると考えています。

青年部会の活動目的・方針については、大別して 2 つ掲げています。

ひとつは、「郷土文化の体験」です。私達は、技術者として日々研鑽を重ねる必要があるのに加えて、県内で業務を遂行するうえでは、「徳島県の文化」についての知識・見識を深めておくことが不可欠なことだと考えています。にもかかわらず、県内で開催されているイベントや郷土芸能、名産、名勝、地域の課題など、郷土文化等に対する知識が不足していることを私自身強く感じています。

本部会では、こうした徳島県人として、いわば知っていて当たり前、参加して当たり前のような事柄に積極的に取り組んでいくこととし、こうした取り組みを「フィールドワーク」

と位置づけて部会活動の中心としています。

二つめは、「若手技術者との交流の促進」です。

徳島県技術士会はこれまで、各年度の新規合格者の参加の積み重ねで構成されてきたと思います。これからも、本会が充実し、さらなる発展を重ねていくためには、修習技術者や若手技術者の参加が欠かせないと考えています。

また、新規合格者が、抵抗なく本会に入会し、諸活動への参加を実現するためには、日頃から交流を深め、入会後の交流を常から意識してもらうことが大切です。

青年部会は、そうした次世代の技術者とともに徳島県全体での活動の活性化、技術者としての意識の向上に貢献していくことに存在意義を見出していく会でありたいと思います。

### 3. これまでの活動

昨年度は、まだまだ会員同士の交流が少なかったこともあり、懇親会等を中心とした組織づくりを中心としてきました。9月には青年部会主催のイベントを企画するものの、台風の影響で中止を余儀なくされました。

また、日本技術士会四国本部・青年技術士交流会が徳島で開催される時には、積極的に参加し、四国4県の青年技術士との交流を図っています。昨年は、新町川クルージングを体験するとともに、県内橋梁についての講習会に参加しました。今後は、機会があれば県外での交流会にも参加し、見識を広めたいと考えます。

本年8月には、かねてから計画しておりました剣山登山ツアーを開催することができました（後述）。

本年以降も、活動方針に沿ったイベント等の開催を目指しています。

### 4. フィールドワーク

青年部会では、前述のとおり、活動の中心であるフィールドワークを開催し、技術士会会員のみならず、一般を含めた多くの方の参加を期待しています。

本年度は、「剣山登山と巨樹巡りツアー」と題して8月1日（土）に開催しました。参加者は20名で、徳島県技術士会会員のほか、修習技術者、一般および会員家族など多数の参加となり、天候にも恵まれて有意義な一日となりました。

行程は、貞光ゆうゆう館出発 → 葛籠のヒノキ・桑平のトチ・ヒノキ → リフト → 剣山山頂 というものでした。以下に詳細を記します。

#### (1) 巨樹について

徳島県は巨樹が多いことで知られており、中でもつるぎ町は、県外からツアーで訪れるほど有名で、天然記念物に指定されている巨樹が密集しています。

巨樹とは、地上から1.3mの高さで、幹周が5m以上になる樹木のことで、つるぎ町では、一宇地区に特に多く、日本一のエノキの巨樹「赤羽根大師のエノキ」をはじめ、県内最大規

模の桜である「吉良のエドヒガン」など、約 100 本もの巨樹が点在しています。

今回、訪れた葛籠のヒノキ・桑平のトチ・ヒノキ (写真 1,2) は、樹齢約 800 年だそうで、人間の手にかかった痕跡もないことから、ほとんど自然の状態であるそうです。800 年もの時を生きたその姿は、生命の尊厳をも感じさせる圧倒的な存在感でした。ちなみに日本一の巨樹は、鹿児島県にある特別天然記念物「蒲生の大クス」で、幹周約 24m、樹齢 1,500 年だそうです。

今回の巨樹見学は、案内人をつけずにパンフレットのみでしたが、地元ガイドの方の説明をうけながらの見学も大変勉強になるそうですので、ぜひ機会をみつけて立ち寄りたいものです。

## (2) 剣山登山

巨樹見学後は、バスで見ノ越駅に向かいます。

剣山リフト「見ノ越駅」周辺は、幹線道路の合流地点で、剣神社・売店・駐車場・宿泊施設などがあり賑わっています。見ノ越駅から西島駅までリフトを利用し山頂を目指します。リフトはいわゆるシングルリフトで約 15 分。のんびりと景色を楽しむことができます。到着すると、日差しがきつく感じる反面、日陰ではひんやりとした空気が心地よく、この

時期ならではの登山に期待が膨らみます。ガイドから、遠く西の空から雨雲らしき雲が近づいている感があるとのことで、早々に山頂を目指すことになりました。

剣山は、標高 1,955m で、四国では石槌山に次いで、近畿以西の西日本でも 2 番目の高峰であり、一帯は剣山国定公園に指定されています。日本百名山にも選ばれており、「つるぎさん」が正式呼称です。山頂は高原のように広いが、眺めは非常に素晴らしく、特に次郎笈や三嶺などの美しい景色が楽しめます。

また、夏の剣山は、高山植物のキレンゲショウマ、シャクナゲ、ミズキなどを見ることができます。なかでもキレンゲショウマは、鮮やかな黄色の花が、ラッパ状に斜め下を向いて咲く文化財の天然記念物に指定されている花です。当日はリフト付近にキレンゲショウマが



写真 1 葛籠のヒノキ



写真 2 桑平のトチ

咲いているのが確認できましたが（写真3）、他はややさみしい感じでした。

登山コースは初心者向きであったことから、道もきれいに整備されており、ゆるやかな起伏をほどよいペースで進みます（写真4）。剣山登山の経験豊富な方も多く参加されており、所々で休憩がてら興味深い話をしていただきました。

登山道は、すれ違うには狭いため、互いに譲り合っ、あいさつを交わすのが常であり、登山者のマナーのよさに、終日気分よく楽しみました。

今回、ガイドを引き受けてくださった中田陽子氏は、自然環境保護員もされており、さまざまな環境保護活動等に從事され、その幅広い知識と自然に対する意識の高さに感銘しました。また、バス移動中には、剣山の名称由来、アーク伝説や、測候所における感動秘話などを話していただきました。今後も青年部会のよきアドバイザーとして交流を深めたいと思っています。

途中、標高1,820m、巨大な岩石と一緒に佇む「大劔神社」にて一息入れました。

（写真5）両脇の柱に「天地一切の悪縁を断ち」、「現世最高の良縁を結ぶ」とあります。神社の裏には白く巨大な御塔石がそびえています。

予定どおり昼前後に山頂に辿り着きました。頂上一帯は、平家落人伝説にちなみ「平家の馬場」と呼ばれ、なだらかな地形になっています。東西約500メートルの範囲は、平家落人たちが源氏との再戦に備え騎馬の訓練を繰り返し、槍や刀を使った大規模な演習など、ここを中心に繰り返されたと言伝えられています。



写真3 キレングেশョウマ



写真4 登山道



写真5 大劔神社

山頂はクマザサに覆われていることもあり、その保護のために木道が張り巡らされています（写真6,7）。

頂上についたころは、やや雲に覆われた天候でしたが、吹き抜けるひんやりとした風が山頂の風情をよりいっそう引き立て、癒されました。

山頂からの景色は、東に紀伊の大草山系、西には石鎚山脈、桂浜、好天には遠く大山の姿を見ることができるそうです。この日はまずまずの見通しでしたが、大山までとはいきませんでした。

多くの登山者で賑わっていましたが、頂上で無事記念撮影もできました（写真8）。

中田さんから、時間があればとなりの次郎笈（標高1,929m）に足を伸ばしませんかとお誘いいただくも、時間内に帰ってくる自信なく断念。山頂から約50分ということですが、私のペースなら2時間くらいかかりそうです。次郎笈は、よく剣山の写真等に出てくる代表的な頂で、1本の登山道が続く様は非常に美しく絵画のようでした。

休憩所の山頂ヒュッテは、2015年7月に改築が終わったばかりで、この日も真新しい木の香りが漂い、多くの登山者で賑わっていました。2Fの宿泊所を覗いてみましたが、大変広く、清潔でした、機会があれば一泊してみたいものです（写真9）。

ヒュッテでは、ノンアルコールビールをいただきました。集合後、下山となりました。御参加いただいた天野副会長御夫妻はヒュッテで一泊されるとのことで、ここでお別れとなりました。後日、夜に満点の星空がきれいに見えたとの話を聞き、うらやましく思いました。



写真6 山頂景色



写真7 山頂景色



写真8 記念撮影

下りは上りよりも体力を使います。慎重にゆっくりと、浮き石に気をつけながら下ります(写真10)。ガイドの中田さんが、上り同様、適所に休憩を入れてくださったおかげで、体力を消耗することなく、初心者にとってはありがたい登山となりました。

剣山滞在時間は2,3時間と短いものでありましたが充実した時間を過ごすことができました。自分にとっては初めての剣山登山でしたが、こうした機会がなければ登山することもなかったように思い、改めて青年部会に感謝です。また、参加者全員、無事下山することができ、剣山登山経験者の方からも御助言いただきましたこと、大変勉強になりました。

## 5. おわりに

つるぎ町には、剣山、巨樹のほか、阿波農業遺産指定の急傾斜地農業集落などの貴重な郷土文化がまだまだ残っています。

今回は、真夏の登山となってしまいましたが、剣山は、自分が想像していたのよりもはるかに過ごしやすく、登りやすい山で、地上の休日とは一風違った山の上での一日は、出会う人々の気遣いや思いやりといったなんとも心地よい空気の中で、あっという間に終わりました。

無事に終わった今回のフィールドワークは、開催までの期間、いろいろと尽力して下さった中田さん、森さんのほか、実行委員の方々等のおかげで実施されたことを心より感謝いたします。この稿を借りてお礼申し上げます。

また、諸先輩方におかれましては、今後とも青年部会の活動に、御理解と御助言のほどお願いいたします。



写真9 山頂ヒュッテ



写真10 下山の様子